

薬学ラテン語 Latin

素養科目 2年/後期 1単位 選択科目

科目責任者 澤元 互

■ 教育目的

ラテン語は、かつてローマ帝国の支配下にあった諸国の共通語でした。死語となった今でも現代語の中にその痕跡をとどめ、学術用語として植物や動物の学名に用いられ、依然として存続しています。特に薬学では、各国の薬剤師が互いに他国語を知らなくてもラテン語の処方箋によって正確に調剤可能であり、医療その他の学術の世界では標準語であるとも言えます。こうしたラテン語の知識に触れることがこの講義の目的です。

■ 学習到達目標

受講者が初歩的な名詞の変化形や動詞の活用変化を修得して薬学用語や略語などに慣れ、ラテン語の処方箋が読めるようになることを目標とします。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：課題(宿題)を調べたうえで参加してください。

復習：常に変化表を口ずさみ、各品詞の活用変化に慣れておいてください。

■ 授業形態

双方向型授業、講義

■ 授業内容

まずは、配布するプリント教材を使って簡単な会話の練習を行い、ラテン語に親しんでもらいます。そして教科書(接続法の項目までは必ず進みます)に準拠しながら解説と演習を行い、随時音読、復習をし、各文法項目を習得します。その上で、実際にラテン語で書かれた処方箋を読みます。授業が負担にならないよう、受講者のペースに合わせて進めますので、授業には常に参加し、練習や課題に取り組んでください。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	ガイダンス	授業の進め方、学習の仕方、文字の読み方など。	
2~12	文法	教科書で順次ラテン語の基礎文法およびラテン語の薬学用語・略語を学んでいく。	
13~15	読解	ラテン語の処方箋を実際に読む。	

■ 授業分担者

澤元 互

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

【フィードバック】授業や定期試験に関する質問等を個別に受け付け、説明をする。【成績評価方法】原則として期末試験(100%)で判定します。

■ 教科書

大槻真一郎著『医学・薬学ラテン語』(三修社)

■ 参考書

講義の中で適宜あげます。